

取組名称：OSCEに関する看護学科FDを踏まえた、看護実践能育成にむけた新カリキュラムの内容検討と卒業時到達目標の評価方法の構築を目指す取組
学部等：看護栄養学部看護学科

○取組の目的

- 目的1. 看護実践能力を評価する看護OSCEのFDを実施し、実習指導者とともに学ぶ。
 - 目的2. 看護実践能力の育成を目指した新カリキュラムの作成および科目内容を検討する。
 - 目的3. 卒業時到達目標の一部評価の試みと次年度以降に向けた具体的評価方法を検討する。
- 以上3つに取り組むことで、看護実践能力の育成を目指す。

● **取組の実施と成果**

目的1の実施

学科FDで講師の樋之津教授が札幌市立大学のOSCEの取組みを報告された。各教員は、本学でどのように応用できるかを検討した。



学科教員と臨床指導者がともにOSCEについて学ぶ ↓



看護OSCEの取組みの実際を臨床と教育と一緒に学ぶことにより、今後、看護実践能力を育成・向上させていくために、臨地実習に結びつく学内での技術教育の事例や方法を共に考える基盤を形成することができた。

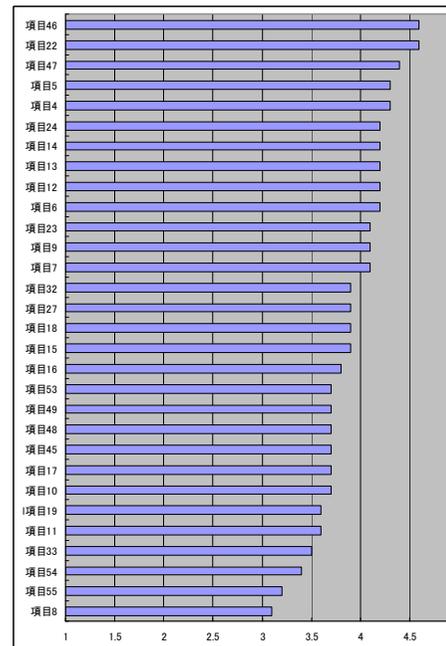
目的2の実施と成果

1)平成24年度から始まる新カリキュラムにおける「統合実習Ⅰ」の展開を実習検討会で検討した。結果、「臨床実践に近い形を体験するため、複数患者を受け持ち1勤務帯を通した実習および夜勤実習(それぞれの学生が2領域)を盛り込んだ実習を行うことで、看護実践能力を高める学習を行う。」ことの具体的展開方法を検討した。



2)左図2枚の写真は、老年看護学において、老年期の方々を対象にヒストリーテイキングをしている場面。学生が事前学習をベースして、インタビューや血圧測定等を行い、患者の健康状態をアセスメントした。臨床に近い演習で、学生の看護実践能力の育成が期待できる。

目的3の実施と成果



看護実践能力到達目標55項目から30項目を抽出し、評価表を作成した。4年次看護学実習の最終実習(母性・小児・精神看護学実習)において、29人を対象に、教員3人が看護実践能力に関する評価を行った。調査結果は左図の如くであった。①29名の平均得点は3.9点であり、目標の4点には達しなかった。評価表については、評価内容が抽象的で評価困難な項目が明らかになり、次年度の「統合実習Ⅰ」で評価が可能になるように、再度検討を重ねることとなった。

● **今後の発展性**

今回、学科FDで学んだ看護OSCEの一部導入を検討しつつ、「統合実習Ⅰ」における夜勤実習や複数の患者を受け持つ実習への準備や、卒業時の到達目標が十分に達成できなかった学生にOSCEを活用する等の試みを検討し、実践能力育成に努めるなど、3つの目的を有機的に連携させながら、学生の看護実践能力を高めていくことが今後の課題である。

看護実践能力の涵養は第2期中期計画の看護学科における重要な課題であり、学科教員がそれぞれの領域から目標達成に向けて取り組んでいきたい。